

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまには、お健やかに新しい年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日ごろより、本会が取り組んでおります地域福祉活動の推進につきまして、ご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、少子高齢社会を背景に、一人暮らしの高齢者、高齢者のみ世帯、認知症高齢者等が増加しております。このような高齢者が、住み慣れた地域で在宅生活を継続するためには、医療や介護サービスに加え、日常生活の様々な支援が必要になってまいりました。



久留米市社会福祉協議会
会長 川地 東洋男

そのような中、昨年は地域包括ケアシステムの構築へ向けた取り組みとして、生活支援サービス体制整備事業を市より受託し、新たに生活支援コーディネーターを配置し支援合い推進会議の取り組みを開始するなど、日常生活の支援体制の仕組みづくりに着手した大きな節目の年となりました。

今後とも多様化するであろう住民の福祉ニーズに応え、地域福祉事業を推進していくためには、地域の皆さまの支援合いがますます重要になります。

本年も校区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会をはじめ、関係団体や市民の皆さまと一体となり、地域福祉の課題解決に努め、『「こころあふれる支えあいのまちくるめ」の実現を目指してまいります。

どうぞ本年も変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年をふり返る 社会福祉協議会 この1年



青木校区社会福祉協議会設立総会
江島孝子校区社会福祉協議会会長あいさつ(写真右より2人目)

●市より生活支援体制整備事業を受託(4月)

生活支援コーディネーターを配置し、「支援合い推進会議」をはじめ、具体的な取り組みがスタートしました。

●市内全域で校区社会福祉協議会への移行が決定(4月～)

4月、城島地域に5校区社会福祉協議会が設立され、新たなスタートとなりました。

北野地域についても4つの校区社会福祉協議会の平成29年度設立が決定されました。

●熊本地震の被災地支援と日赤奉仕団による街頭募金活動(4月～)

4月に発生した熊本地震の災害ボランティアセンター運営支援のため、現地へ職員を派遣するとともに、市と共催で災害ボランティアバスを約2か月間にわたって運行しました。

また、久留米市赤十字奉仕団は、熊本地震災害義援金の街頭募金活動などを行いました。

●共同募金会久留米市支会が県社会福祉大会で優秀地区表彰を受賞(10月)

●改正社会福祉法に基づき市社協定款を全面的に改訂(12月)

3月の社会福祉法の改正を受け、全面的な定款の改訂手続きを実施しました。

●法人後見受任件数17件。 法人後見支援員を採用し新体制をスタート(12月)



災害ボランティアバス運行